

地域ぐるみで守る安心

安心を生む助け合い

「火事だー」と、館内に響く大きな声。

篠路五ノ戸町内会にある「グループホーム菜の花しのろ館」では、夜間を想定した避難訓練が定期的に行われています。

「火災から逃げられても、一時避難場所が必要となります。町内会に相談したところ、地域の方々のご自宅を提



林さん（右）に話を聞く新井記者（左）と高松記者（中）



避難者を誘導する春原会長（右）

供していただけることになりました」と話すのは管理者の長谷川静さんと林玉恵さん。

同館の避難訓練には、消防署の職員や地域の消防団のほか同町内会の方々も参加します。開設当初は、施設の様子を知ってもらうために町内会へ訓練の見学案内をしていたそうです。今では同町内会の方が火災にあった際には、同館を一時避難場所として提供する準備を整えるなど、お互いに協力し合う関係になりました。



訓練後に行われる反省会の様子

あいさつが結んだ絆

「地域の方とは、あいさつを交わすことから始め、徐々に地域の行事にも参加するようになり、今のような関係ができました」と話す長谷川さん。今では、同館の夏まつりに地域の方が協力するなど、すっかり地域に溶け込んでいます。

「目新しいことは何もしていません。昔からあった地域での支え合いの精神です。当たり前のことをやっているだけです」と話す春原会長の笑顔が印象に残りました。

地域の高齢者を見守る活動については各地域の町内会や民生委員・児童委員協議会、各地区の社会福祉協議会（福祉のまち推進センター）などでも取り組んでいます。あなたも地域の活動に参加して安心の輪を広げてみませんか。

詳細 北区保健福祉課活動推進担当
☎北区役所内線 342

あいさつってすごい！

今回の取材では、ちよつとした声掛けで地域の輪が広がるのがわかりました。私たちが地域でできることを教えてもらいました。

「まず、あいさつから始めることです。あいさ

つをすればそこから会話が広がり、相手のことも自分のこともわかるようになる。そうすることで絆が生まれてきますよ」と、教えてくれました。皆さんの地域でもあいさつから始めてみませんか？

取材を終えて



屯田北中 1 年
みこみしょうた 見込 将 太君

声掛け活動の取材の時に、皆さんが「安心感が増えました」と笑顔で話すのを聞いて、声を掛けることは心強いものだと思えました。広報さつぽろの編集作業も楽しかったです。



屯田中央中 1 年
たかまつ えむ 高松 絵夢さん

「地域の方にあいさつをする」そんな当たり前のことを忘れていました。最近はいいさつをするように心掛けています。広報記者になつてとても良かったです。



屯田北中 1 年
あら い 新井 みさとさん

「あいさつ」というごく近所付き合いの原点を行っていた篠路五ノ戸町内会の皆さん。あいさつの温かさに触れることができました。私も町内であいさつをしてみようと思いました。